

# 令和5年度 教頭部会研究計画

## 1 研究主題

**未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり**  
**－主体性を発揮し ウェルビーイングを実現する人財の育成－**

## 2 研究主題について

平成から令和へ、新しい時代へと変わる中、技術革新とグローバル化が急激に進み、人口知能の進化、高度情報化社会の到来と、生活の質的变化に対する対応力の育成がより強く求められている。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大や、風水害、地震の発生など急な対応が必要とされる事態も起こっている。このような将来の予測が困難な時代に、志高く未来を創りだしていくために必要な資質・能力を子供たちに育むことが学校教育の喫緊の課題である。

このような背景をふまえ、学校教育においては、「地域や社会に開かれた教育課程」を展開し、子供たちの時代に進展・変化に的確に対応する「生きる力」を身につけさせていくとともに、困難な中でも自ら積極的に未来社会を切り拓いていくための資質・能力を育まなければならない。

昨年度までの研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の研究の中では、新たな夢を描く想像力と新たな夢を実現する創造力を高め、生きる力を育んできた。これまでの研究で解明された成果と課題を明らかにしながら、残された課題をふまえた研究を継続し、さらには一歩進んで、よりよい社会や幸せな人生を積極的に築き上げていく力「未来を切り拓く力」を育むとともに、我々副校長・教頭が自信と誇りを持って働ける「魅力ある学校づくり」を引き続き具現化していきたい。

以上のことから、研究主題を「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」に設定した。

## 3 研究推進にあたって

全国公立学校教頭会では、全国統一の研究主題を設定し、半世紀近くにわたり継続的・組織的に取り組んできました。本年度は、第13期全国研究主題を掲げての研究の初年度となる。第12期の3年間は、コロナ禍により多くの制限があったなかでも、徳島県小中学校教頭会として、課題解決を目指していく研究の「継続性」、副校長・教頭がともに情報や様々な教育実践を共有・深化していく「協働性」、副校長・教頭として学校の様々な教育活動にどのように関わっていくかという「関与性」に焦点を当てながら、実践研究を進めてきた。

徳島県小中学校教頭会では、魅力ある教頭会を目指し、未来を切り拓いていくための変革を進めてきた。本年度は、四国地区小中学校教頭会研究大会（徳島大会）があり、これまでの成果を発揮する年にしたい。

## 4 研究の基本目標について

日本国憲法・教育基本法・学習指導要領の理念に基づき、子供たち一人一人に、未来を切り拓いていくために必要な資質・能力を育む学校教育を実現していくことが、私たちの大きな使命である。その使命を果たすために私たちは、副校長・教頭の職務内容の研究を通して力量を高め、国民の期待に応える魅力ある学校づくりに努めることが必要となる。

以上のことから、次のことを研究の基本目標とする。

### ○教育理念に基づく学校教育の実現

特色ある学校づくりを展開し、生きる力を育む学校教育の実現を目指す。

### ○副校長・教頭としての力量の向上

広い視野に立って学校運営が行えるよう、学校教育に対する識見を深める。

### ○学校の社会的役割の推進

国民の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する。

## 5 研究の基本方針について

実践研究を進めるにあたっては、次の3点を基本方針とする。

### ○学校教育の課題の解決に努める

私たちの研究は、国民の期待に応え、教育基本法及び学校教育法の諸法規に定められた教育の目標を達成することを究極の目的とする。そのために自ら職能を高め、学校現場が抱えている課題の解明に努める必要がある。

### ○副校長・教頭の職務内容や職務機能の追求する

学校運営において、副校長・教頭としての関わりを大切にし、その職務内容を実践的に追求するとともに職務機能の充実を図ることが大切である。

### ○研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす

研究活動と政策提言活動（要請活動）は教頭会の活動の2本柱である。研究の成果を政策提言活動に生かし、教育環境の整備に役立てていくよう努める。

## 6 研究の方法について

本年度の教頭会研修は、配信動画を視聴することによって7月以降に研修を行う。研究大会においては、8月3日・4日に全国公立学校教頭会研究大会（石川大会）、11月22日に四国地区小中学校教頭会研究大会（徳島大会）を行う。

四国地区小中学校教頭会研究大会（徳島大会）については、新型コロナウイルス感染症の状態を考慮し、「安心・安全」「全員参加」「負担軽減」を合い言葉に、コンパクトな大会を目指し、四国大会では初のオンラインで一日開催にすることとした。午前中に記念講演を行い、午後から分科会を行う。また、分科会については、一分科会一提言で行う。これも四国大会

では初めての試みである。前回の徳島大会終了後に、「そもそも分科会で提言は必要なのだろうか」「副校長・教頭の資質の向上を図る分科会にするためにはどうすればよいか」「グループ協議を充実させるためにはどうすればよいか」といった話し合いから生まれたものである。第1課題から第5課題については、提言発表を行い、その後グループ協議を行うことにより研究を深める。第6課題については、特別課題で研修を行う。

研究を進めるにあたっては、副校長・教頭が日々実践していることを基にし、「継続性、協働性、関与性」に焦点を当てた実践的研究を行う。

## (1) 研究課題について

### 第1課題 教育課程に関する課題

- 各校の実態を踏まえた教育課程の編成
- カリキュラム・マネジメントを軸とした学校改善

### 第2課題 子供の発達に関する課題

- これからの社会をたくましく生き抜く力、資質・能力の育成
- 児童生徒に適切な対応や指導を行うための校内体制づくり

### 第3課題 教育環境整備に関する課題

- 防災体制、安全管理に関わる環境整備の推進
- GIGAスクール構想の実現に向けて学校環境の整備

### 第4課題 組織・運営に関する課題

- 地域とのつながり、学校間のつながりの構築に向けた方策
- 様々な状況に適切に対応できる危機管理体制の強化

### 第5課題 教職員の専門性に関する課題

- 教職員の協働体制づくりと、学校運営への参画意識の高揚
- 教職員の力量の向上につなげる校内研修体制づくり

### 第6課題 副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題

- 多様化、複雑化する課題への組織的な対応の在り方
- ワーク・ライフ・バランスを重視した労働環境づくり

## (2) 継続性、協働性、関与性に焦点を当てた実践研究

実践研究を進めるにあたっては、「継続性」「協働性」「関与性」に焦点を当てる。

「継続性」に焦点を当てた研究とは、単位教頭会・副校長会組織に改編があっても、これまでに解明されたことは何か、残された課題は何かを踏まえた問題解決型の研究を継続的に進めていくことである。

「協働性」に焦点を当てた研究とは、単位教頭会・副校長会における組織的な研究として、同じ副校長・教頭としての同僚性を発揮し、協働的に研究を進めていくことである。

「関与性」に焦点を当てた研究とは、副校長・教頭として、何をすべきか、どうあるべきか、どう関わるべきかを念頭に置き、単位教頭会の課題を勤務校での自らの職務遂行や校内研修の課題に関わらせ、そこで得られた成果や課題を単位教頭会に反映させつつ研究

を進めていくことである。

### (3) 分科会について

- ① 研究の成果をふまえた継続的研究を発表する。
- ② 提言内容については、各単位教頭会の組織的・協働的研究とする。
- ③ 提言に当たっては、教頭としての関わりを明確にする。
- ④ 四国地区小中教頭会研究大会において、阿波市小学校教頭会が第2課題において、提言を行う。
- ⑤ 四国地区小中教頭会研究大会の大会要項に載せる提言の柱立ては、次のようになる。  
(1) 主題設定の理由 (2) 研究のねらい (3) 研究の概要 (4) 研究の成果と今後の課題  
(5) 協議の視点
- ⑥ 分科会の運営については、次の単位教頭会が担当になっている。  
(1B) 美馬郡市・吉野川市 (2) 阿波市 (5) 板野郡・那賀郡 (糊課題) 小松島市・名西郡
- ⑦ 特別課題については、次のようになる。  
演題「ポストGIGAへの指針 ～学校教育DXの検証と未来～」  
講師 中川齊史 氏

### (4) 記念講演について

- ① 演題と講師  
演題「人が育ち 幸せになる理念経営  
～月ワク度94%の『そこまでやるか』の組織づくり～」  
講師 西泰宏 氏 ( 西精工株式会社 代表取締役社長 )
- ② 記念講演の運営については、研究委員会が担当となる。

### (5) 令和6年度全国公立学校教頭会研究大会について

令和6年7月31日・8月1日に開催される令和6年度全国公立学校教頭会研究大会（高知大会）に向けて、本年度より研究を進める。

- ① 提言郡市について  
第5A分科会において、三好郡市が提言を行うことになっている。
- ② 研究主題  
「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり  
～夢と志をもち、協働して未来を創る子どもを育成するチーム学校づくりの推進～」
- ③ 令和5年度研究計画
  - ・ 9月12日 全国大会提言者執筆説明会（オンライン 高知から発信）
  - ・ 12月5日 提言原稿検討会（徳島県小中学校教頭会 研究委員会）
  - ・ 1月20日 高知大会提言者研修会（オンライン 高知から発信）